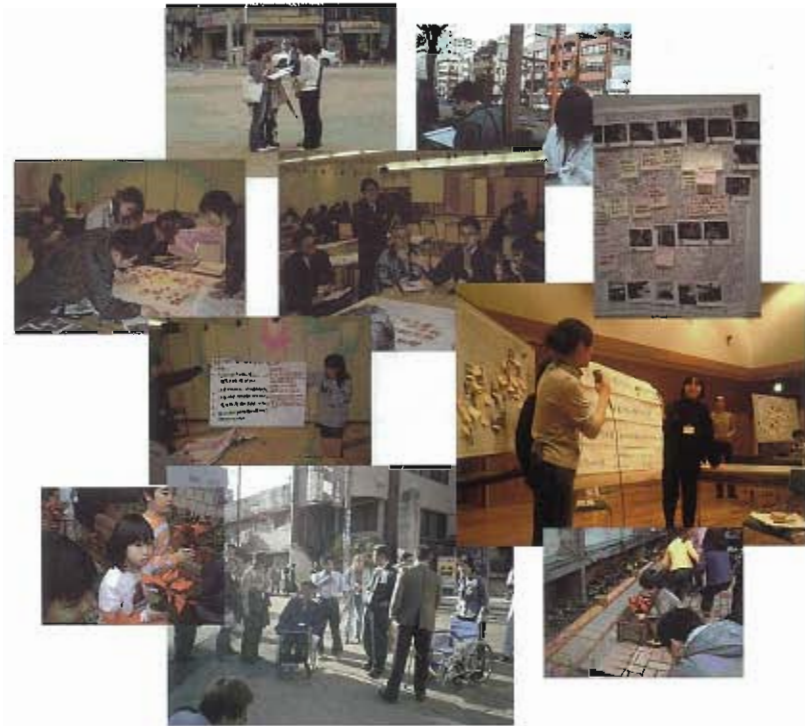




みんなで考えよう国道34号の未来を！

ルート34ワークショップ

提言書



平成16年3月

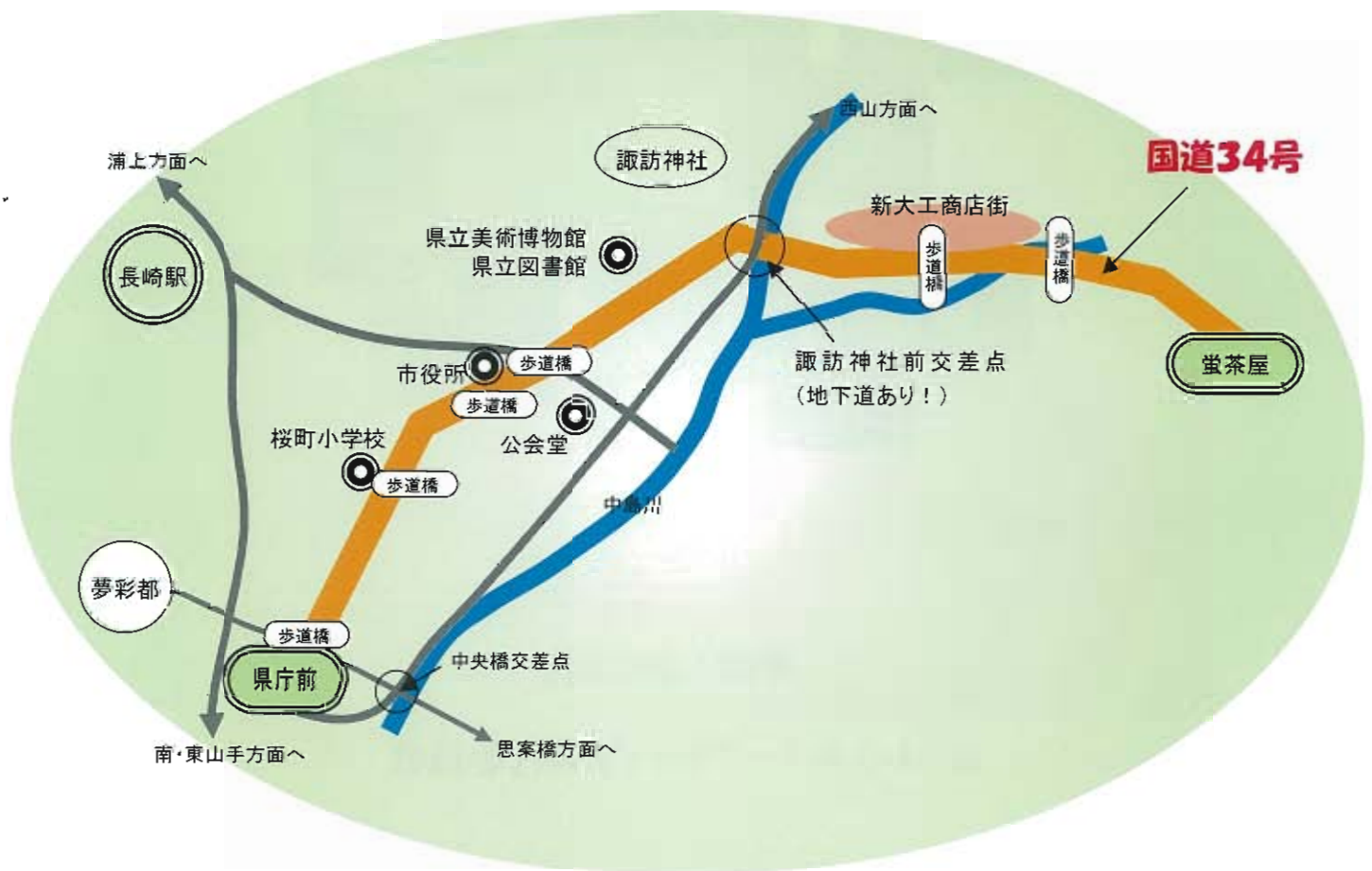
ルート34ワークショップ実行委員会

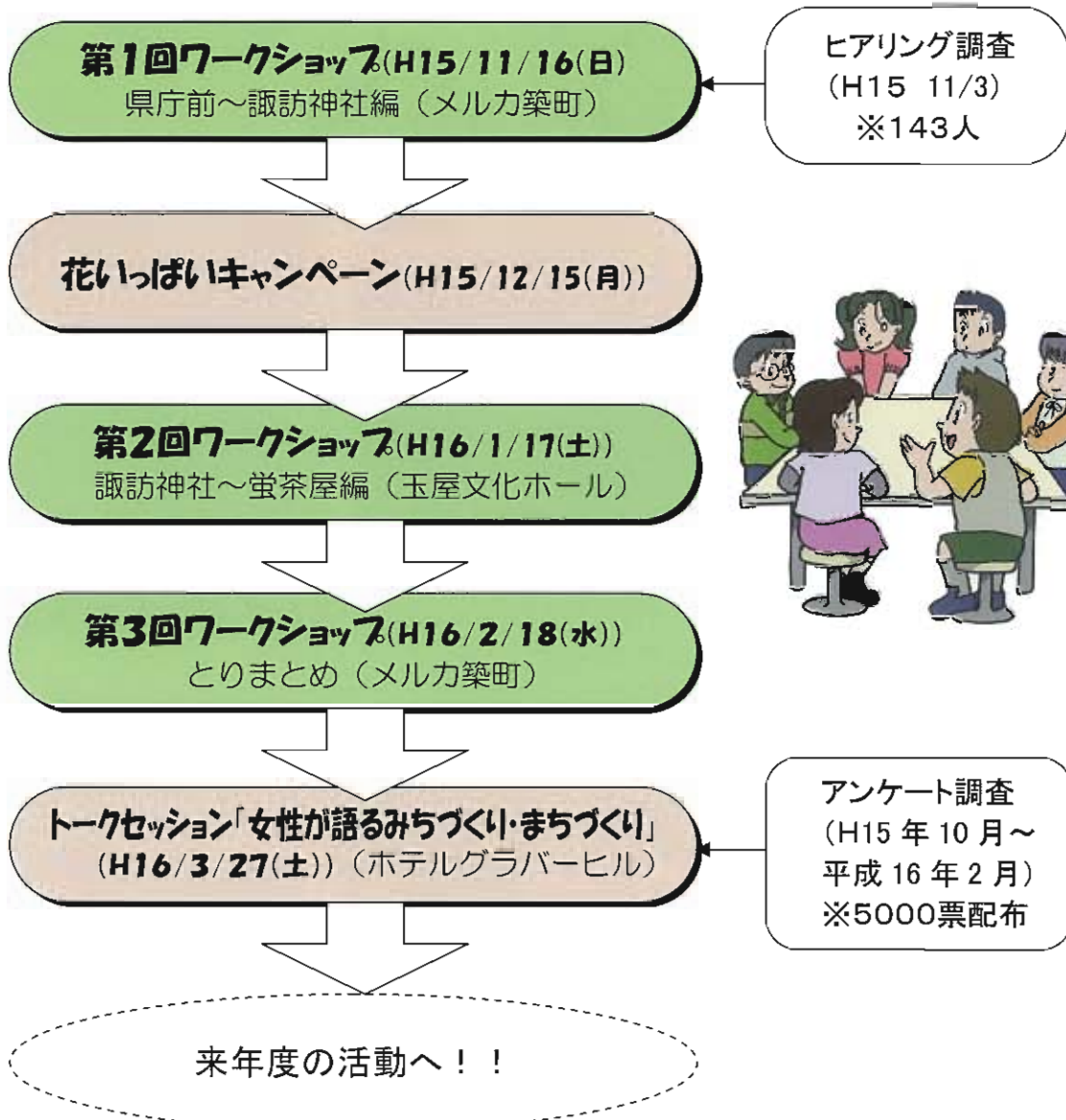
(1) ルート347ワークショップとは？

私たちにとって“道”とは何でしょう。
みなさんは、日々の暮らしに欠かせない“道”に関心を持っていますか？

これからの道づくりに、私たち「生活者の声」を反映させるためにも、道との関係をもう一度考え直してみようと思います。

その第一歩として、長崎の中心を貫く国道34号、特に県庁から蛸茶屋までの区間について、広く市民の声を聞きながら将来の道づくりの提案を行うために、このワークショップを企画致しました。





目のしと重工に耐えて...



市役所のエレベーター 便利にする



わがまちの改善

(2)ワークショップからの提案

バリアフリー



まちには“バリア
(障壁)”がたくさん
あるんだなあ

あざみはなはな
あざみはなはな



15mのゾコの段差(穴)



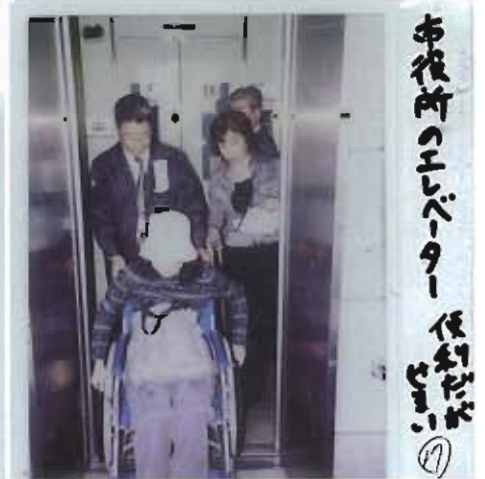
不連続はあまごっく

道づくりのアイデア

- ・点字ブロックの連続性確保
- ・バス停の改良
- ・路面の凹凸の解消
- ・自転車・バイク・看板等の不法占拠物の撤去
- ・側溝の蓋の改良
- ・車椅子が通れる歩道幅員の確保
- ・歩道橋下の植栽スペースを利用した駐輪場の整備
- ・カーブミラーの設置
- ・スロープの設置(建物へのアプローチ)
- ・信号の時間の適正化(特に中川町)



歩道橋



道づくりのアイデア

- ・県庁前歩道橋の撤去
- ・旧桜町小学校前歩道橋の撤去
- ・市役所前歩道橋の古い方の改修
- ・歩道橋下を使った駐輪場の整備
- ・誰もが利用しやすい歩道橋づくり
- ・景観に調和した歩道橋づくり
(フラワーポットの設置等)



諏訪神社前交差点



車込体験



北側のパネルがわかりにくい



Q パネルがない



道づくりのアイデア

■地下道

- ・安全面(照明、非常ベル、防犯カメラ、案内板の設置)
- ・美観面(パネルの更新、清掃の徹底)
- ・利便性(エレベーターや手すりの設置、滑り防止)

■地下道周辺

- ・歩きやすい歩道づくり
- ・清掃の徹底等



歩きたくなる道づくり



史跡



市役所 史跡



道づくりのアイデア

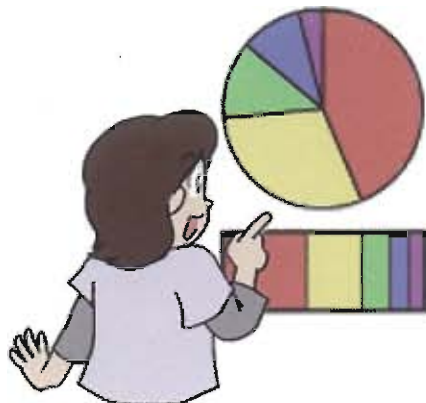
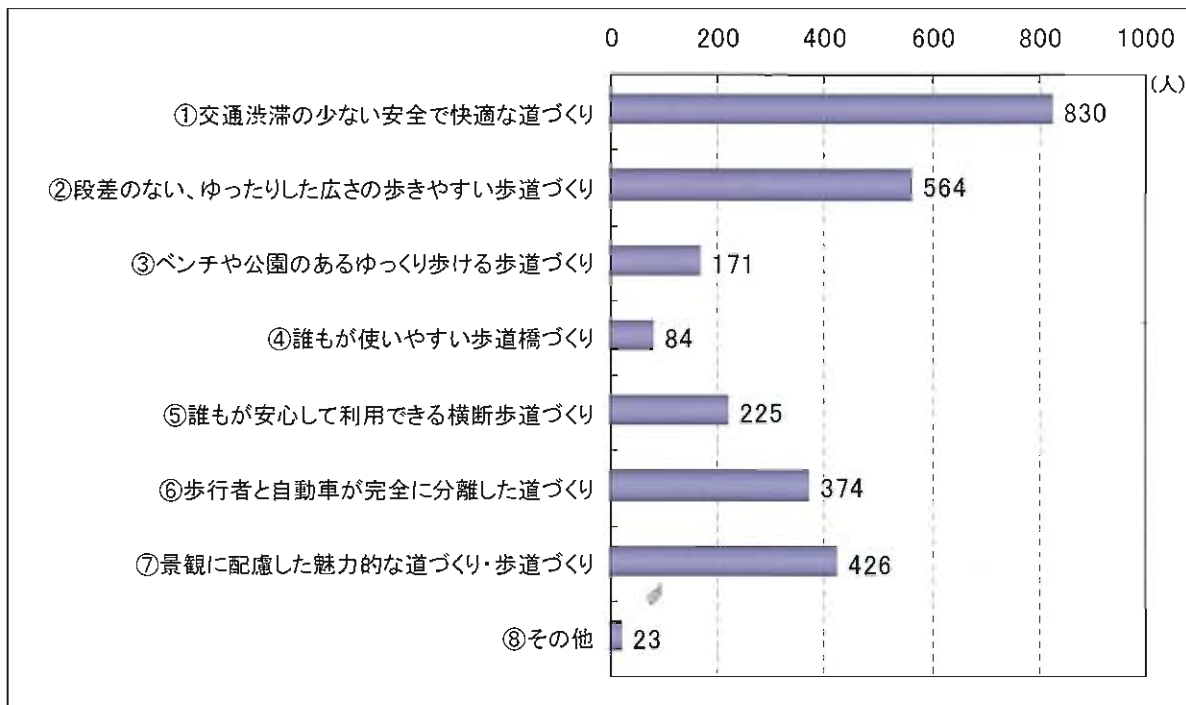
- ・街路樹等の更なる充実(花壇コンクール等の開催)
- ・歴史的遺産の発掘・再活用
- ・ポケットパークやベンチの設置
- ・清掃の徹底
- ・歩道の不法占拠物の撤去(バイク、自転車等)

→国・県・市・市民の連携強化



(3) アンケートの結果

道づくりに関する幅広い市民の意向を伺うためにアンケート調査を実施しました。対象は国道34号沿線住民など約5000人。右図のような大変参考になる結果がまとまりました。



(4)花いっぱいキャンペーン

平成15年12月15日(月)、子供たちと一緒に国道34号を
花で飾るイベントを開催しました。



長崎市の市民グループが十五日、同市役所(桜町)一丁目(江戸町)までの歩道七百間に、ポインセチアの鉢植え五百鉢を植えた。沿道はポインセチアの鮮やかな赤色が映え、近づくクリスマスを演出している。

グループは「ルート34ワークショップ実行委」(阿野史子委員長)。阿野委員長が昨年度、国土交通省設置の「長崎市街部(県庁・荻茶屋間)道路空間検討協議会」に参加したのを機に、その後も、地域住民らと同区間の道路環境を考える活動を続けている。

同日、市立緑が丘保育所園児が、伊藤市長にホ



伊藤市長にポインセチアの鉢植えを手渡す園児
＝長崎市役所桜の広場

Xマスへ街路美しく

長崎の市民グループ

市役所から 市庁まで ポインセチア飾る

ポインセチアの鉢植えを手渡した。伊藤市長は「ポインセチアの花言葉は『祝福』。沿道をクリスマスの花で彩るアイデアは素晴らしい。皆さんに祝福がありますように」とあいさつ。

その後、同グループの学生らが鉢植えを入れたプランターを沿道に並べた。阿野委員長は「毎日通る道に花があったらすてきという発想から初めて取り組んだ」と話す。「飾っている間、土が乾いていたら水を入れてください」。二十五日は、クリスマスプレゼントとして鉢植えを自由にお持ち帰ってください」と呼びかけた。

(平成15年12月16日長崎新聞朝刊より)

(5)女性が語るみちづくり・まちづくり(トークセッション)

平成16年3月27日(土)、歩きやすい道・歩きたくなる道・魅力ある道づくり、まちづくりをテーマに、「女性が語るみちづくり・まちづくり」トークセッションを開催しました。このトークセッションは、様々な分野で道に関する女性が意見交換を行い、市民の道路に対する関心を高め、行政と協働で道づくりやまちづくりを進めるために開催したもので、当日は、会場の定員である150名を上回るほどの参加者にあふれ熱気に満ちた会となりました。



道やまちづくりをテーマに活発な意見が飛び交ったトークセッション
＝長崎市南山手町の長崎全日空ホテルグラバーヒル

(平成16年3月28日長崎新聞朝刊より)

子孫に残すまちづくりを 女性ら150人活発討議

長崎

道路の管理や整備、まちづくりをテーマにした「道づくりを支えた人々」トークセッション「女性が語る道づくり・まちづくり」が二十七日、長崎市南山手町の長崎全日空ホテルグラバーヒルであった。同市中心部を走る国道34号の整備などを考えるルート34ワークショップ実行委が主催。市民ら約百五十人が参加した。

作家の田村喜子さんが「道づくりを支えた人々」と題し基調講演。「道路は便利さを追求するだけではなく、子孫に残す土木遺産。責任と誇りを」となどと訴えた。トークセッションでは、同実行委員長の阿野史子さんと視覚障害がある下田敦子さんら六人がパネリスト、佐藤信秋国

士交通省道路局長ら二人がゲストアドバイザー、長崎ネットワイク市民の会会長の村本昭一郎さんが司会を務めた。「側溝にはつえが挟まらないようなふたを」「狭い長崎は歩くと、車の入らない道造ってほしい」「道路造りには住民の声を聞く場を制度化して設けるべきだ」などの要望のほか、「年度末になぜ道路工事が多いのか」などの質問も。活発な意見が飛び交った。

(6)その他の関連記事

魅力的な国道34号へ

市民らのワークショップ
長崎で景観など実地調査



国道34号の歩道について気付いた点を書き留める参加者。長崎市万才町。

長崎市中心部を走る国道34号の道路整備などについて市民の意見を反映させる「第1回ルート34ワークショップ」(ルート34ワークショップ)実行委員会(実行委)が、十六日、同市の美里町のメルカドさきまちで開かれた。

このワークショップは、国土交通省長崎工事事務所が三月に開いた国道34号についてのワークショップに参加した市民らが一総的に取り組む「こと実行委」阿野史子代表を立ち上げて開催。県庁から飯茶屋宿まで

(平成15年11月17日長崎新聞朝刊より)

国道34号 市民の目線で見直そう

長崎市中心部を通る国道34号と、その周辺環境を市民の目線で見直す「ルート34ワークショップ」(同実行委主催)が、十七日、同市の諏訪神社前―飯茶屋間で開かれた。

同実行委は、国道34号の整備や管理のあり方に



調査に続き、二回目の開催で、結果をまとめて、三月に国土交通省長崎工事事務所に報告する。

同実行委の地下道や歩道を調べたグループは、「ここは地下道の照明が暗く、壁が汚い。天井も低いので圧迫感があり、早い早歩きになる」と指摘し、改善の必要性を指摘した。

私たちの道づくり・チャレンジ

ルート34ワークショップ

NEWS FLASH vol.1

みんなで考えよう、国道34号の未来を!

アンケート調査

道づくりに関することや、道づくりに関する意見を5000人に聞き取り調査。やはり安全・快適・景観への要望がダントツ。

市民ワークショップ

お年寄りや主婦、車イスでの参加者と共に、3回にわたって現地調査。なるべく！な提案を募集。

おっぱいキャンペーン

昨年のスマス前に子どもたちとポイントで国道34号を賑やかに歩こう!

3/27 (土) トークセッション 開催決定!

日時 3/27(土)13時~15時
場所 長崎生白室ホテル グラバービル
入場無料
①ルート34ワークショップ
②おっぱいキャンペーン
お問い合わせ095-822-6833

長崎で活躍する女性たちと道づくりに関わるパナリストが登場。身近な道と生活について語ります。

(平成16年1月18日西日本新聞朝刊より)

(ザ・ながさき 平成16年3月12号)

ルート34ワークショップ提言書

平成16年3月

編集・発行：ルート34ワークショップ実行委員会